令和６年6月１６日

南 の 風 ５１０

南部地区ミニバスケットボール連盟
会　長　藤原　敬一

５０９号の続きです。

言われたことだけをやる選手もいれば、言われたこと以上をやる選手もいます。すべては選手次第。取り組み方こそが選手の成長を決めます。

しかし多くの選手は、「練習メニューが良ければ自分はうまくなれる」とか、「良いコーチがいればもっとうまくなれる」と思いがちです。そこまでではなくても「もっと良い練習メニューはないか」「強豪校はどんな練習をしているのだろう」と考えます。もしそう思っているとしたら、まずはその価値観から変えていかないといけません。強豪校の練習メニューをそのまま持ってきて練習すれば強くなれると思うのは大きな勘違いです。まずは自分次第でどんな練習メニューでも価値のあるものになるということに気づかなければなりません。練習メニューにうまくしてもらうのではなく、自らがうまくなるんだと思うことから始めなければなりません。

ヒンズー教の教えに「態度が変われば行動が変わる」という一文がありました。具体的に「行動が変わる」ときはどんなときでしょうか。それは老婆に見えていた絵が、女性に変わったとき、まさに自分の考え方や物事の見方が変わったときです。

こんな例え話があります。巨大な軍艦が海を進んでいました。艦長も船員も他の船のことは気にせず我が物顔で海を真っすぐに進んでいきます。すると前方に小さな船らしき明かりが見えました。このままの進路を取ればぶつかります。しかし小さな船は進路を変えようとしません。そこで船長は無線で前方の船に「進路を変えなさい」と指示を出します。すると相手からは「そちらが進路を変更しなさい」という予想外の返答がありました。船長は小さな船の艦長よりも自分の方が階級が上だというプライドがあります。高圧的な態度でもう一度進路を変えるように指示を出しました。すると相手から「こちらは灯台だ」と返事が返ってきました。艦長は進路を変えるしかありませんでした。

艦長は、前方の明かりは船の明かりだと思い込んでいました。その考え方が変わらない以上、自分の行動を変えることはありませんでした。ところが相手は動くことができない灯台だとわかった瞬間、自分の行動を変えます。相手に進路を変えろと言っていた艦長が「自分が進路を変えよう」と行動を変えたのは、明かりに対する物事の見方が変わったからです。

この教訓から学べることは二つです。一つは、考え方や物事の捉え方が変われば行動も変わるということです。逆に言えば、行動が変わらないのは考え方の質が変わっていないからです。二つ目は、原則に従うということです。灯台が動けないということは原則的な条件です。ここで、相手が灯台だろうが関係ない！と意固地になって自分行動を変えなかったら、この軍艦は座礁してしまいます。スポーツ選手として、破ってはいけない原則的なものは何か、それを見抜くことが重要なのです。

次号では、鈴木氏が提唱する「記号の世界の戦い」について書きます。